

私たちにとって

「ちょうどいい」オフィスってなんだろう

働き方はどこまで変わったでしょうか。

いつでもどこでも働けるという考え方は、確実に世の中へ浸透してきています。

しかし、まだまだ十分に機能しているとは言いきれないのではないのでしょうか。

その実現のために必要なこと、それは働くための環境づくり。

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を実現するための

多様性に富んだ空間づくりが必要だと私たちオカムラは考えます。

Contents

3 STYLES

5 PROCESS

7 WORK PLACE

9 ベース

17 集中スペース

21 カジュアルスペース

25 プロジェクトスペース

33 ラウンジスペース

37 コラボレーションスペース

41 ホーム

42 アラウンドプレイス

43 SDGs・ESGへの取り組み

44 CMF / Work x D



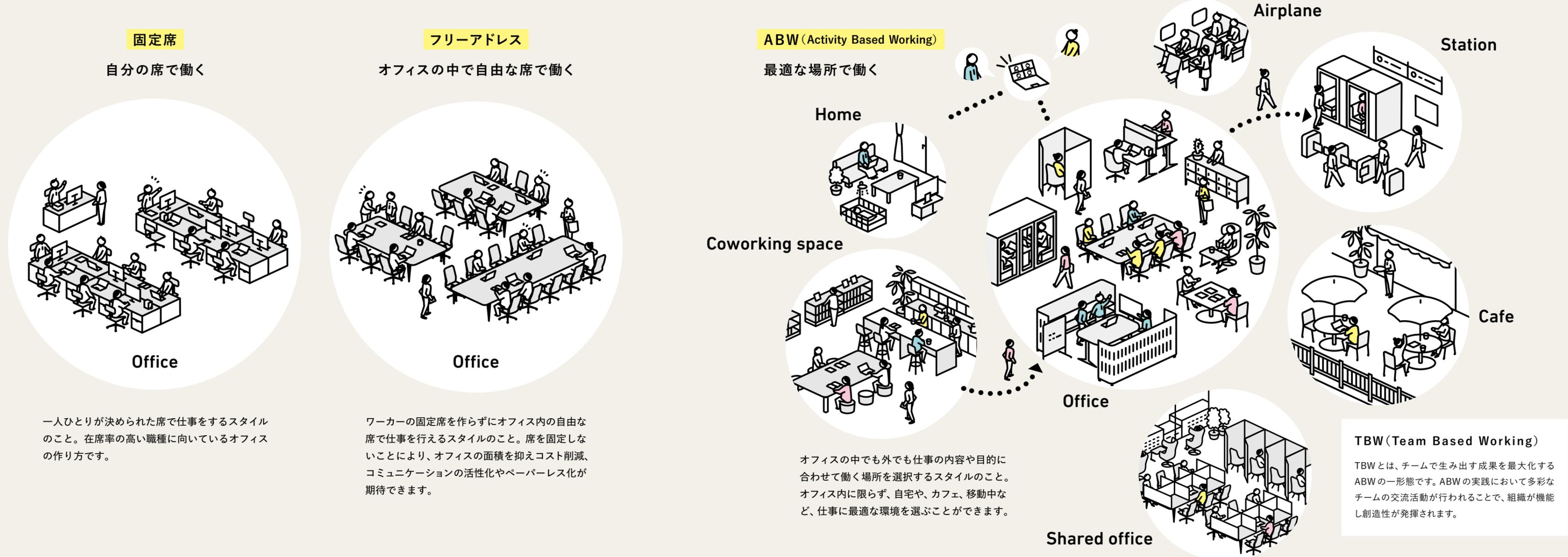
STYLES

さまざまなワークスタイル

人が「生きる」環境づくり

目的や仕事の内容に合わせた働く場所の選択肢を設けることで、ワーカーの働く意欲を更に高めることができます。このように仕事の内容に合わせて働く場所を選ぶ働き方は、「ABW (Activity Based Working)」と呼ばれ、近年普及が急速に進んでいます。

はたらく人が「生きる」ことは、組織を、そして社会を豊かにします。ワークスタイルとオフィスの見直しにより、多様なワーカーのエンゲージメント向上、そしてWell-beingの実現、持続的な企業成長を目指しましょう。従業員が「生き活きと働ける環境」を整備することは、人材価値・企業価値を高める有効な手段にもなります。



一人ひとりが決められた席で仕事をするスタイルのこと。在席率の高い職種に向いているオフィスの作り方です。

ワーカーの固定席を作らずにオフィス内の自由な席で仕事を行えるスタイルのこと。席を固定しないことにより、オフィスの面積を抑えコスト削減、コミュニケーションの活性化やペーパーレス化が期待できます。

オフィスの中でも外でも仕事の内容や目的に合わせて働く場所を選択するスタイルのこと。オフィス内に限らず、自宅や、カフェ、移動中など、仕事に最適な環境を選ぶことができます。

TBWとは、チームで生み出す成果を最大化するABWの一形態です。ABWの実践において多彩なチームの交流活動が行われることで、組織が機能し創造性が発揮されます。

PROCESS

多様な仕事を最適に行うためには、ワーカーが選択できる多様な環境が必要です。
オフィスに必要な場は「オフィスにおける6つの行動」と「行動をより深く理解するための切り口」によって「6つのスペース」に分類することができます。

オフィスにおける6つの行動

アイデアを生み形にする行動群



実務のアイデア創造そのものにかかわる。

- 「探す」：情報を集めたり、精査する。
- 「考える」：集めた情報に発想をぶつけて、埋め込む。
- 「生み出す」：届けるべき人のためにアウトプットを研ぎ澄ます。

関係を広げる行動



共創のきっかけを起こし架け橋となる。

- 「話しかける」：自らの行動によって、仲間を増やす。

創造の土台をつくる行動群

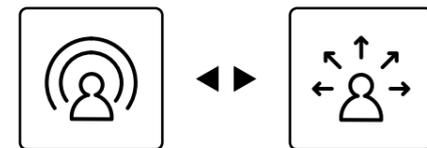


実務の潤滑油の役割を果たす。

- 「つながる」：所属の枠を超えて互いの人となりを知り、仲を深める。
- 「くつろぐ」：リフレッシュして、新たな活力と心のゆとりを得る。

行動をより深く理解するための切り口

6つの行動のゴールが明確か



フォーカスモード オープンモード

- 「フォーカスモード」：行動のゴールが明確で、目的をもって行動する。
- 「オープンモード」：行動のゴールを設定せず、リラックスした状態で、行動内容も変化する。

6つの行動を誰と行うか



ひとり 社内の人と 社外の人と

個人での作業も他者との交流も、両方が効率よく快適に行えることがオフィスには求められます。イノベーションを起こすためには組織内のいつものメンバーだけでなく、時には組織の垣根を越えた交流も必要です。

オフィスに必要な6つのスペース



ひとり



社内の人と

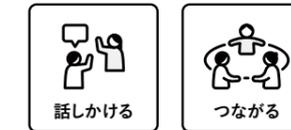


社外の人と



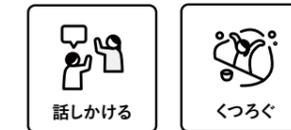
オープンモード

ベース BASE



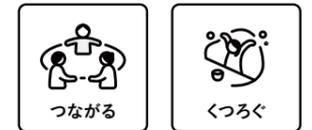
周囲からのコミュニケーションを許容し働く場

カジュアルスペース CASUAL SPACE



仕事の活力をチャージしながら偶発的な交流をする場

ラウンジスペース LOUNGE SPACE



多様な人が話題を共有し関係を構築する場



フォーカスモード

集中スペース FOCUS SPACE



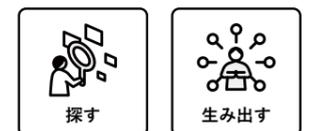
音や視線を遮って集中する場

プロジェクトスペース PROJECT SPACE



メンバーがゴールに向かって議論・作業する場

コラボレーションスペース COLLABORATION SPACE



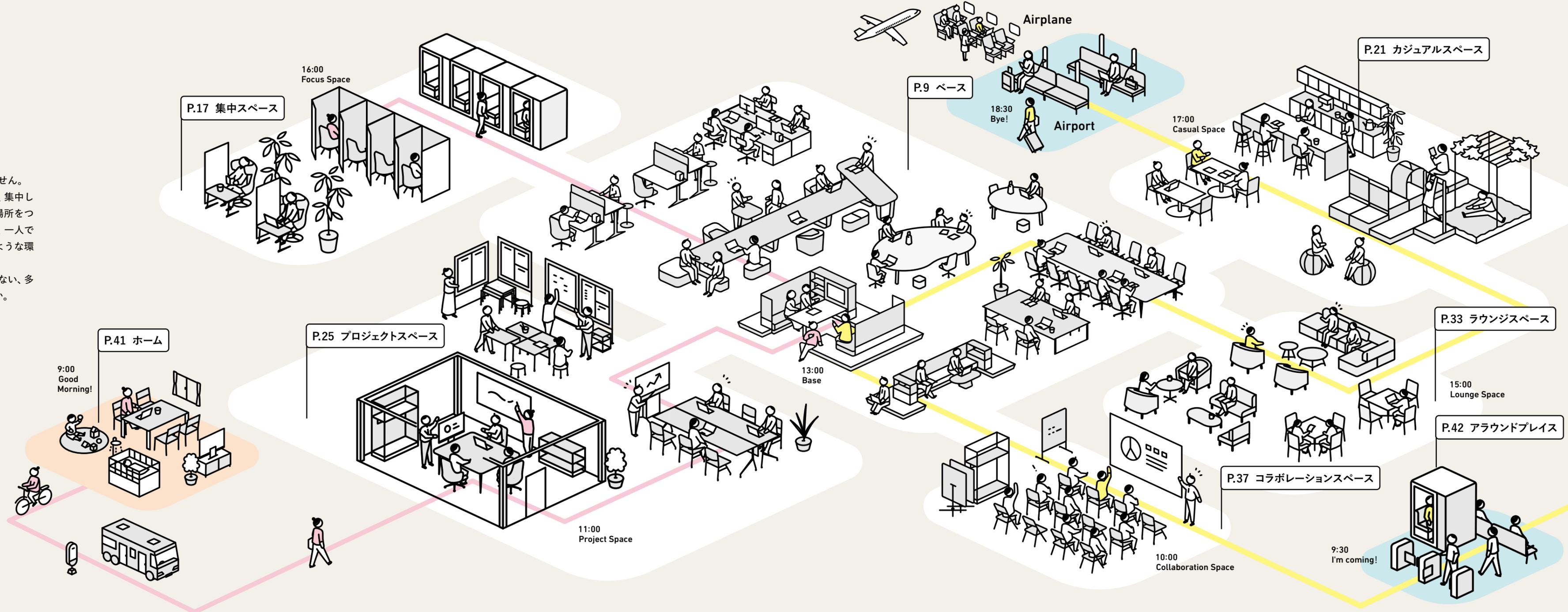
多様な人が集いテーマをもって議論・作業する場

※行動はそれぞれの場で行われる代表的なものを挙げています。

WORK PLACE

高いパフォーマンスを実現するための働く環境

“働く環境”のつくり方に唯一の答えはありません。カフェでは会話をを楽しむ人も、読書をする人も、集中して仕事をする人もいます。同じように、働く場所をつくる時にも、同僚と一緒にアイデアを練ったり、一人で作業をしたりと多様な行為を受け入れられるような環境を整えることが大切です。一つの場所にこだわらない、一つの行為に限らない、多様な働き方を実践してみてもいいのではないでしょうか。



ベース

周囲からのコミュニケーションを許容し働く場

オフィスの活動の拠点となる場で、事務処理やメールのチェックなど毎日行う定例業務に最適です。個人で業務をしつつ、必要があれば周りに声をかけて確認したり、ちょっとした相談も行えます。



コロナ禍で席の運用に変化がでています。

コロナ禍前と調査日時点(2023年8月)と、今後のオフィスの座席運用の方法を調査しました。コロナ禍前は7割以上のワーカーが固定席の座席運用で働いていましたが、コロナ禍を経て、固定席での運用で働いているワーカーは約6割程度まで減少しており、今後望ましい運用方法としては、約半数まで減少していることがわかります。

あなたが勤務するオフィスの座席の運用を教えてください

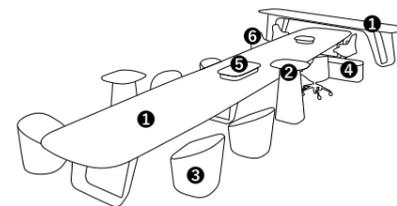


■ 固定席 ■ フリーアドレス ■ グループアドレス
■ 固定席があったうえでそのほかの席も選択できる

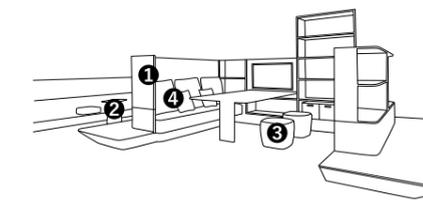
出典:2023年オカムラ調べ



BASE



1. WORK CARRIER (ワークキャリアー) アンカーテーブル
2. WORK CARRIER (ワークキャリアー) サテライトテーブル
3. WORK CARRIER (ワークキャリアー) ソファ
4. WORK CARRIER (ワークキャリアー) ワゴン
5. WORK CARRIER (ワークキャリアー) アドオンプレート
6. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)



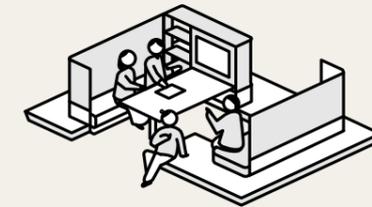
1. WORK VILLA (ワークヴィラ) カフェテーブル
2. WORK VILLA (ワークヴィラ) ソファ
3. WORK CARRIER (ワークキャリアー) ワークスツール
4. クッション



BASE

「BASE」はオフィスの働く拠点となる場所です。目的に応じて様々な設えをつくることができます。
目指す働き方と運用に合わせて「BASE」の空間を整えましょう。

コミュニケーションを誘発する
クリエイティブファニチュア



人数の増減に対応しやすい
ベンチデスク



フレキシブルに使いやすい
テーブルデスク



健康的に働く
電動昇降デスク



個人の領域が明確
単体デスク



BASEを支えるアイテム



モバイルロッカー
ポストの有無や容量など、運用方法に合わせてお選びいただけます。



モバイルバッグ/ツールボックス
パソコンや書類などをスムーズに持ち運べて、すっきりと整理できます。



ワークカート/ワゴン
書類が多い場合は、ワークカートやワゴンが便利です。



集中パネル
集中パネルがあれば席を移動せずに短時間の集中作業が可能です。

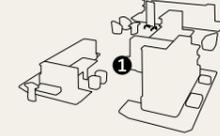
ベース

周囲からのコミュニケーションを許容し働く場

「コミュニケーションを誘発させる」クリエイティブファニチュア



- 1. WORK CARRIER (ワークキャリアー)
- 2. Spher (スフィア)

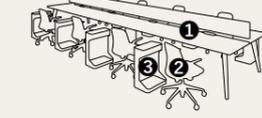


- 1. WORK VILLA (ワークヴィラ)

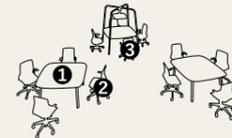
「人数の増減に対応しやすく、フリーアドレスに最適」ベンチデスク



- 1. Finora (フィノラ)
- 2. PRECEDE (プリシード)



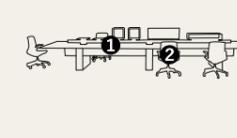
- 1. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
- 2. Lives Entry Chair (ライブス エントリーチェア)
- 3. Lives Wagon (ライブス ワゴン)



- 1. WORK ISLE (ワークアイル)
- 2. CYNARA (シナーラ)
- 3. Potam (ポータム)



- 1. Pro Unit Freeway (プロユニットフリーウェイ)
- 2. Sabrina (サブリーナ)



- 1. MIKOTO (ミコト)
- 2. CYNARA (シナーラ)

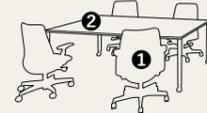
ベース

周囲からのコミュニケーションを許容し働く場

「レイアウト変更をしやすい」テーブルデスク



- 1. CYNARA (シナーラ)
- 2. Aption Free 2 (アプションフリー2)
- 3. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
- 4. Lives Unit Sofa (ライブス ユニットソファ)

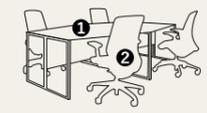


- 1. Potam (ポータム)
- 2. Aption Free 2 (アプションフリー2)

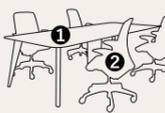
「1人1台で個人のスペースを明確にわけて使える」単体デスク



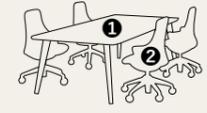
- 1. SOLISTE (ソリスト)
- 2. mode (モード)



- 1. SOLISTE (ソリスト)
- 2. Spher (スフィア)



- 1. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
- 2. Spher (スフィア)



- 1. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
- 2. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)

「天板傾斜で最適な姿勢で働ける」チルトデスク



- 1. REGAS (リーガス)
- 2. Finora (フィノラ)
- 3. 上下昇降デスク用ワゴン
- 4. Lives Shelf (ライブス シェルフ)

「自分の快適な姿勢で健康的に働ける」電動昇降デスク



- 1. Swift Nex (スイフトネックス)
- 2. Spher (スフィア)

集中スペース

音や視線を遮って集中する場

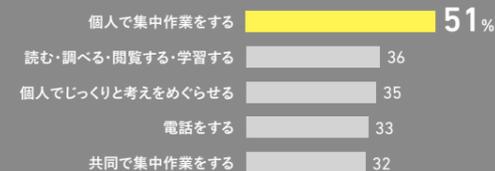
集中力を求められる作業や気密性の高い業務を行うための、他から邪魔されない”籠れる場”です。個々の集中作業はもちろん、web会議を行う場としても最適です。



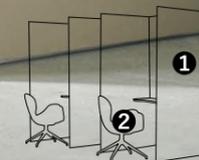
個人で集中して作業がしたい

仕事に合わせて社内外の様々なスペースを利用するワーカーを対象に調査したところ、パフォーマンスを上げるために個人の集中作業を重要としていることがわかりました。

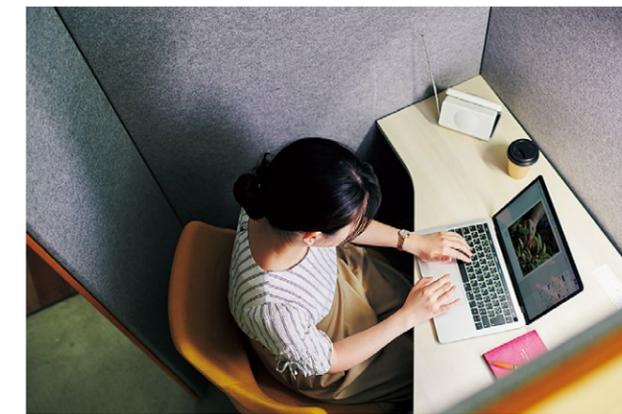
あなたの業務パフォーマンスを上げるために重要な活動は?(上位5項目)



出典:WORKMILL RESEARCH ISSUE 01



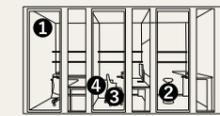
1. drape (ドレープ)
2. Phlox (フロックス)



余計な音と視線を遮るフルクローズ空間

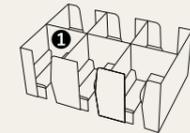


1. TELECUBE (テレキューブ) by okamura



1. Lives Partition (ライブス パーティション)
2. pirouette (ピルエット)
3. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)
4. Lives Wagon (ライブス ワゴン)

視線をカットし程よいリラックス感を与えるセミクローズ型ブース

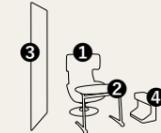


1. Bresta (プレスタ) 個室ブース

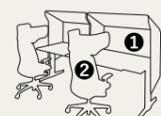


1. drape (ドレープ)
2. 8117

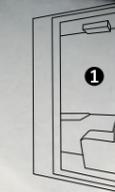
人の動きが視界に入り難く、後ろのからの視線もさりげなくカット



1. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
2. Lives Personal Table (ライブス パーソナルテーブル)
3. Lives Panel (ライブス パネル)
4. Lives Wagon (ライブス ワゴン)



1. REGAS (リーガス) ルーフパネル仕様
2. Sylphy (シルフィー) ワークペール仕様



1. TELECUBE (テレキューブ) by okamura

カジュアルスペース

仕事の活力をチャージしながら
偶発的な交流をする場

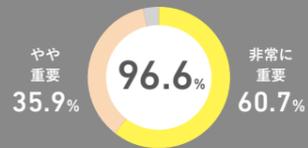
次の仕事のための活力とアイデアを生むために、適切な休息をとったり、くつろいだりすることは重要です。偶発的な出会いが生まれやすく、コミュニケーションが始まるきっかけの場にもなります。



インフォーマルなコミュニケーションが重要

予定していない出会いから発生する会話(インフォーマルコミュニケーション:IFC)が仕事を進める上で有効だと言われています。一般社団法人ニューオフィス推進協会の調査結果では、96.6%もの人がIFCを「重要」だと認識しています。

仕事を進める上でのIFCの重要度は?



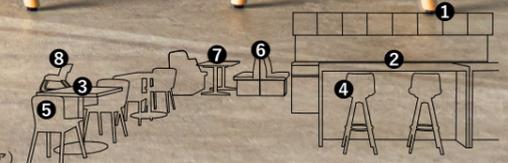
出典：コミュニケーション活性化のための機器・環境研究報告資料／一般社団法人ニューオフィス推進協会



1. PARK WORK (パークワーク)
2. Lives Personal Table (ライブス パーソナルテーブル)
3. Bresta (プレスタ)



1~3. Alt Piazza (アルトピアッツァ)
4. pirouetto (ピリエット)
5. Lives Café Chair (ライブス カフェチェア)
6,7. Bresta (プレスタ)
8. Lives Lounge Chair (ライブス ラウンジチェア)



CASUAL SPACE

カジュアルスペース

仕事の活力をチャージしながら
偶発的な交流をする場

「オープンで気軽に立ち寄りたくなる」カウンターと、「収納として便利な」キャビネット



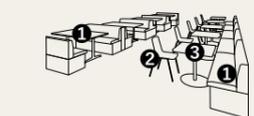
- 
1. Lives Counter (ライブス カウンター)
 2. Lives Café Chair (ライブス カフェチェア)
 3. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
 4. Bresta (プレスタ)



- 
1. Alt Foyer (アルトホワイエ) ラインカウンター
 2. Amita (アミタ) ハイチェア
 3. Alt Foyer (アルトホワイエ) クロス脚テーブル
 4. Amita (アミタ) 4本脚

「リラックスしてリフレッシュ。仕事にも息抜きにも使い勝手のいい」ソファ



- 
1. Bresta (プレスタ)
 2. linkage (リンケージ)
 3. Alt Piazza (アルトピアッツァ)



- 
1. Lives Unit Sofa (ライブス ユニットソファ)
 2. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
 3. Lives Café Chair (ライブス カフェチェア)

CASUAL SPACE

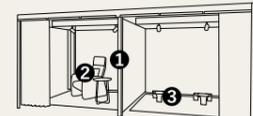
「居心地の良い空間づくりができる」テーブル&チェア



- 
1. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
 2. Lunetta (ルネッタ)

「一休みして、仕事のパフォーマンスをあげる」ナップスペース



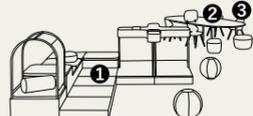
- 
1. Lives Post Beam (ライブス ポストビーム)
 2. Siervo (シエルボ)
 3. マインドfulnessツール



- 
1. Belleville Table (ベルヴィル テーブル)
 2. Belleville Chair (ベルヴィル チェア)
 3. Tabouret Haut (タブレ オウ)
 4. Tip Ton (ティプトン)

「体を動かし、心身の切り替えができる」パークワーク



- 
1. PARK WORK (パークワーク)
 2. Alt Foyer (アルトホワイエ)
 3. Amita (アミタ)

プロジェクトスペース

メンバーがゴールに向かって
議論・作業する場

プロジェクトを行う上で欠かせない情報共有や共同作業に必要な場です。目的に向かって効率的に議論をするためには、立ち会議を取り入れたり、大型モニターやホワイトボードなどの情報共有ツールをうまく使いこなしましょう。



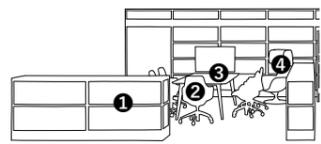
やっぱりチームで集まりたい

ハイブリッドワークで時間と場所が自由になると、チームメンバーと会う機会が減ります。しかし、7割以上の人はオフィスにチームの拠り所が必要だと感じているようです。チームメンバーで集まって働ける環境を整えていくことが求められていることがわかります。

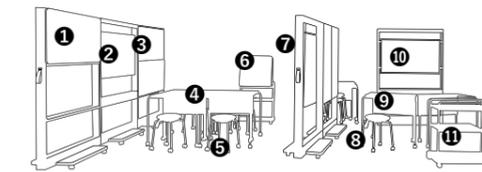
オフィスにチームメンバーで
集まれる場所が必要か



出典：2022年オカムラ調査



- 1. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
- 2. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)
- 3. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
- 4. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)



- 1. 3. SPRINT (スプリント) ボードスタンド
- 2. 10. SPRINT (スプリント) モニタースタンド
- 4. 9. SPRINT (スプリント) テーブル
- 5. 8. SPRINT (スプリント) ツール
- 6. SPRINT (スプリント) チームワゴン
- 7. SPRINT (スプリント) ハンガースタンド
- 11. SPRINT (スプリント) ツールワゴン



- 1. Lives Partition (ライブス パーティション)
- 2. Lives Wagon (ライブス ワゴン)
- 3. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)
- 4. nel (ネル)
- 5. Lives Lounge Sofa (ライブス ラウンジソファ)
- 6. Lives Pouf (ライブス プーフ)
- 7. Lives Café Table (ライブス カフェテーブル)
- 8. Phlox (フロックス)
- 9. CREBO (クレボ)
- 10. ペンダントC

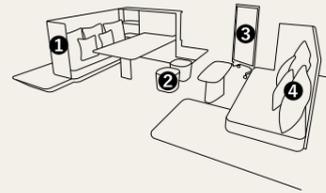


プロジェクトスペースの3つのタイプ

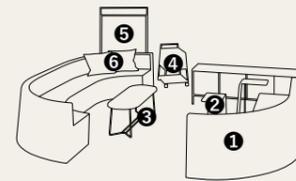
プロジェクトスペースは目指すチームと作業内容によって、「オープン/セミクローズ/クローズ」の3つのタイプに分類できます。チーム力を高めるうえで、メンバーが直接顔を合わせて働く場に大きな価値があると考えます。

オープンタイプ

周囲からもチームの様子がわかるので、気軽に意見をもらったり、談笑したり、人と人をつなぐ場として有効に機能します。



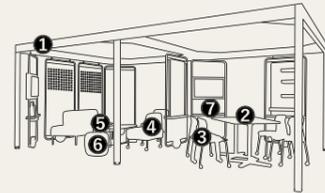
1. WORK VILLA (ワークヴィラ)
2. WORK CARRIER (ワークキャリアー) ワークスツール
3. CREBO (クレボ)
4. クッション



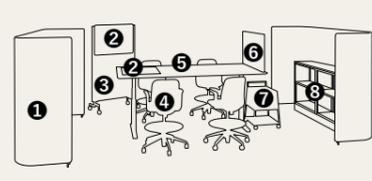
- 1.2. Alt Piazza (アルトピアッツァ)
3. Lives Café Table (ライプス カフェテーブル)
- 4.5. GO-DO (ゴド)
6. クッション

セミクローズタイプ

ほどよいこもり感で自分たちの占有空間を作り、作業効率を高めます。



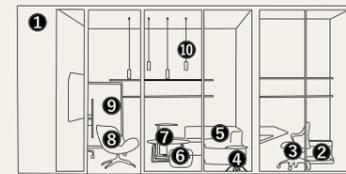
1. Lives Post Beam (ライプス ポストビーム)
2. Lives Meeting Table (ライプス ミーティングテーブル)
3. ena (エナ)
4. Lives Collaboration Sofa (ライプス コラボレーションソファ)
5. Lives Café Table (ライプス カフェテーブル)
6. Lives Pouf (ライプス プーフ)
7. OCポータブルバッテリー



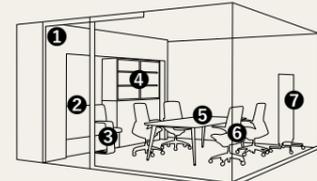
1. muffle+ (マッフルプラス)
2. Acti@fit (アクティアフィット)
3. CREBO (クレボ)
4. Lives Entry Chair (ライプス エントリーチェア)
5. Swift (スイフト)
6. ディスプレイユニット
7. GO-DO (ゴド)
8. Lives Shelf (ライプス シェルフ)

クローズタイプ

機密性の高い情報を扱うチームに向いています。個室で周囲の環境と切り離せるため集中したいプロジェクトに最適です。



1. Lives Partition (ライプス パーティション)
2. Lives Wagon (ライプス ワゴン)
3. Lives Work Chair (ライプス ワークチェア)
4. nel (ネル) 5. Lives Lounge Sofa (ライプス ラウンジソファ)
6. Lives Pouf (ライプス プーフ)
7. Lives Café Table (ライプス カフェテーブル)
8. Phlox (フロックス) 9. CREBO (クレボ) 10. ペンダントC



1. PROSSIMO (プロッシモ) 間仕切り
2. Bresta (プレスタ)
3. Alt Piazza (アルトピアッツァ)
4. Rectline (レクトライン)
5. Lives Work Table (ライプス ワークテーブル)
6. Finora (フィノラ)
7. CREBO (クレボ)

チームの一体感を高めるアイテム



情報共有にホワイトボードや黒板を。長期のプロジェクトで必要な情報は書いたまま残しておけます。



モニターがあれば直ぐにチームでの話し合いを始められます。



個人での集中作業や、同僚との共同作業もできるようにミーティングテーブルがあると便利です。



チームの収納を置くことで、より共有資料や機材を見つけやすくなります。

チームを加速させるアジャイルな働き方

最高のアウトプットを最速で実現するチームをつくるためには、作業内容や参加人数に合わせて、環境を最適化すること「Flexible」、思いついたアイデアをいち早く共有すること「Quick」、議論のプロセスを「見える化」して認識のズレを防ぐこと「Stock」が重要です。



目的に合わせて自由自在に移動



アイデアを瞬時に表出



ミーティングの内容をそのままストック

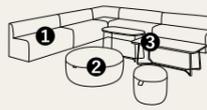
オープンタイプ

「規模や目的に合わせて使える、自由度の高い」可動式テーブル&チェア



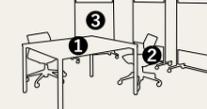
1. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
2. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)
3. Lives Panel (ライブス パネル)

「リラックスした気持ちで話し合える」ソファ

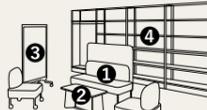


1. MS58
2. Lives Pouf (ライブス プーフ)
3. Lives Café Table (ライブス カフェテーブル)

セミクローズタイプ



1. Aption Free2 (アプションフリー2)
2. Zart (ツァルト)
3. GO-DO (ゴド)



1. Lives Collaboration Sofa (ライブス コラボレーションソファ)
2. Lives Café table (ライブス カフェテーブル)
3. CREBO (クレボ)
4. Lives Shelf (ライブス シェルフ)

「ほどよいこもり感をつくる」ワークブース



1. drape (ドレープ) ミーティングブース

「周りとの境界線をゆるやかに作る」シェルフ&ライブスポストビーム

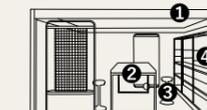


1. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
2. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
3. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)
4. CREBO (クレボ)
5. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
6. モニタースタンド

「立つことで効率的なミーティング」電動昇降テーブル



1. Swift IV (スイフトクアトロ)
2. ena (エナ)



1. Lives Post Beam (ライブス ポストビーム)
2. Alt Piazza (アルトピアッツァ)
3. piouetto (ピリエット)
4. Lives Shelf (ライブス シェルフ)

クローズタイプ

余計な音と視線を遮るフルクローズ空間

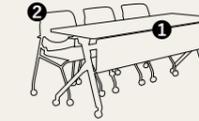


1. TELECUBE (テレキューブ) by okamura 四人用

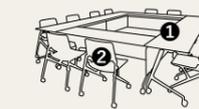


1. Snow Hut (スノーハット) 多人数用

「規模や目的に合わせて使える、自由度の高い」可動式テーブル&チェア

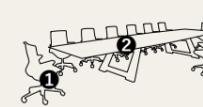


1. FLAPTOR (フラプター)
2. Runa (ルナ)



1. Marca (マルカ) テーブル
2. Marca (マルカ) チェア

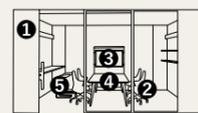
「大規模ミーティングに最適」大型テーブル



1. mode (モード)
2. traverse (トラヴァース)



1. T-skill (ティースキル)
2. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)



1. Lives Partition (ライブス パーティション)
2. Lives Work Chair (ライブス ワークチェア)
3. SPRINT (スプリント) モニタースタンド
4. Lives Work Table (ライブス ワークテーブル)
5. L175



1. Snow Hut (スノーハット) 多人数用

ラウンジスペース

多様な人が話題を共有し
関係を構築する場

カジュアルな雰囲気や、リラックスできる落ち着いた空間は、心のゆとりを感じさせ自然な会話の発生を促します。今まで交流のなかった人たちとのコミュニケーションのきっかけを生みだします。



新たな出会いをつくるには

新しく知り合いを増やすときにラウンジのように落ち着いた空間が役立つかを聞いたところ、約7割の人が「役に立つ」と答えました。

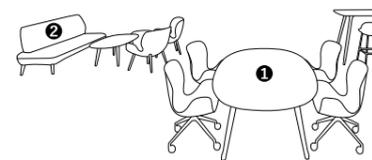
社内の知り合いを増やすときに次の空間は役立つか
ラウンジのように落ち着いた空間



出典：2023年オカムラ調査



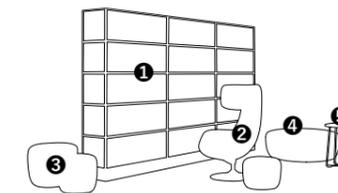
LOUNGE SPACE



- 1. Phlox (フロックス)
- 2. NAGARE (ナガレ)



- 1. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
- 2. LUXSYS (ラグシス) コーヒーテーブル



- 1. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
- 2. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
- 3. 4. Lives Pouf (ライブス プーフ)
- 5. Lives Café Table (ライブス カフェテーブル)

ラウンジスペース

多様な人が話題を共有し
関係を構築する場

「カジュアルな空間を作り出す」テーブル&チェア



- 1. Phlox (フロックス) ラウンジチェア
- 2. Phlox (フロックス) ミーティングテーブル

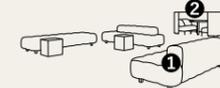


- 1. Lives Personal Chair (ライブス パーソナルチェア)
- 2. Lives Café table (ライブス カフェテーブル)

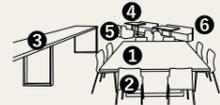
「落ち着いた雰囲気を作り出す」ソファ&ラウンジチェア



- 1. Lives Lounge Sofa (ライブス ラウンジソファ)
- 2. Lives Pouf (ライブス ブーフ)
- 3. Lives Café Table (ライブス カフェテーブル)



- 1. CUBIST (キュービスト)
- 2. muffle+ (マッフルプラス)



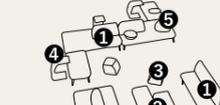
- 1. Alt Piazza (アルトピアッツァ) ライブラリーテーブル
- 2. Alt Piazza (アルトピアッツァ) チェア
- 3. Alt Piazza (アルトピアッツァ) メインカウンター
- 4. Alt Piazza (アルトピアッツァ) カフェテーブル
- 5. Alt Piazza (アルトピアッツァ) パーソナルソファ
- 6. Alt Piazza (アルトピアッツァ) ブロックソファ



- 1. tresseR (トレッセ R)
- 2. Puc (プック)



- 1. Lives Pouf (ライブス ブーフ)
- 2. Lives Café Table (ライブス カフェテーブル)
- 3. Lives Lounge Chair (ライブス ラウンジチェア)



- 1. NAGARE (ナガレ) プラットフォームタイプ
- 2. NAGARE (ナガレ) カフェテーブル
- 3. NAGARE (ナガレ) スツール
- 4. NAGARE (ナガレ) パーソナルテーブル
- 5. NAGARE (ナガレ) マルチパーバクッション

コラボレーション スペース

多様な人が集いテーマを持って
議論・作業する場

より良いアイデアを生み出すには自由な空気感が必要です。社外セミナーやイベントなどの外部コラボレーションの場として、研修など社内グループワークの場としても利用できます。またイベントがない時には、社員のタッチダウンやミーティングエリアとして多目的に使えます。



共創が必要と感じるワーカーが多い

「これからより良く働くために、今後どのようなことが必要になると思いますか?」という意識調査を実施したところ、社内のチームワークや社外コラボレーション等、他者との共創に関する項目を回答するワーカーが多かったです。

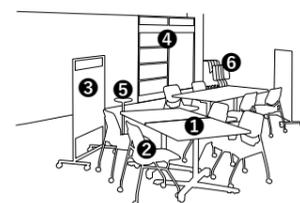
働くために今後必要になることは?(上位5項目)



出典：2019年オカムラ調べ



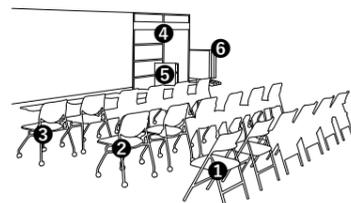
WORKSHOP



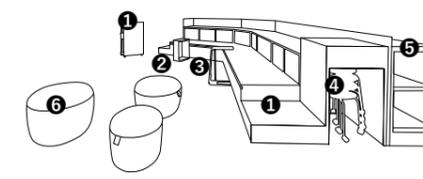
1. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
2. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)
3. GO-DO (ゴド) ホワイトボード
4. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
5. アクセスポール (コンセントアクセサリ)
6. Runa (ルナ)



PRESENTATION



1. Lives Folding Chair (ライブス フォールディングチェア)
2. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)
3. Runa (ルナ) タブレット付
4. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
5. GO-DO (ゴド) 演台
6. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)



1. Bresta (プレスタ) ステップベンチ
2. dock (ドック)
3. Alt Piazza (アルトピアッツァ)
4. SPRINT (スプリント) スツール
5. Lives Shelf (ライブス シェルフ)
6. Lives Pouf (ライブス プーフ)

コラボレーション スペース

多様な人が集いテーマを持って
議論・作業する場

「すっきり収納できてレイアウトを自由に変えられる」
フラップテーブル&チェア



-
1. Lives Meeting Table (ライブス ミーティングテーブル)
 2. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)
 3. アクセスポール (コンセントアクセサリ)

「立ち姿勢もとれて自由に動かせる」上下昇降テーブル



-
1. Staffit II (スタフイットII)
 2. Part (パート)

「アイデア記録の定番」ホワイトボード



-
1. CREBO (クレボ) ホワイトボード
 2. Acti@fit (アクティアフィット) ホワイトボード
 3. Acti@Fellow (アクティアフェロー)
 4. SALITRO (サリトロ)

「コミュニケーションが取りやすい」スイング機構付きチェア



-
1. Cradle (クレイドル)

「電源供給をスマートに」パワーソリューション



-
1. 2. OCポータブルバッテリー
 3. SPRINT (スプリント) モニタースタンド
 4. Lives Slide Panel (ライブス スライドパネル)
 5. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)
 6. Lives Swift (ライブス スイフト)

「人の集う場を構築する」ステップベンチ



-
1. Bresta (ブresta) ステップベンチ
 2. Lives Pouf (ライブス プーフ)



-
1. アクセスポール (コンセントアクセサリ)
 2. 8177テーブル
 3. Lives Nesting Chair (ライブス ネスティングチェア)

「用途に応じて空間を自由に仕切れる」移動間仕切り



-
1. CARRERA (キャレラ) 軽量移動間仕切り



-
1. CARRERA (キャレラ) 軽量移動間仕切り

ホーム

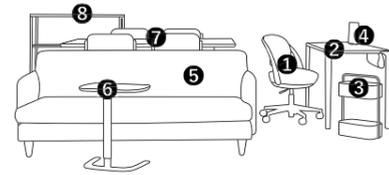
自分の時間を大切に働く

自宅の中でも、リビング、ダイニング、書斎など働く場所は様々です。普段生活する場だからこそ、ワークライフバランスを意識して、自分らしく効率的に働ける環境が求められます。



HOME

1.Parabel (パラベル) チェア 2.Parabel (パラベル) デスク 3.VIVANT (ヴィヴァン) ポット 4.OC (オーシー) ポータブルバッテリー
5.ホームソファ 6.アジャスタブルサイドテーブル 7.canteen (キャンティーン) 8.Lives Shelf (ライブスシェルフ)



ア라운드プレイス

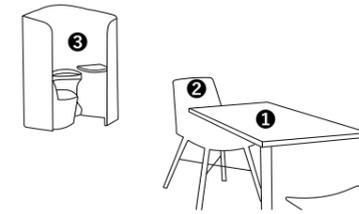
オフィス以外も使って働く

メインオフィスと自宅以外の働く場の総称で、オフィスに近いものとしては会社が契約するシェアオフィス、自宅に近いものとしてはマンションの共用部などの働く場などが該当します。また、コワーキングスペース、空港や駅の一角、カフェ、図書館など、幅広い働く場もア라운드プレイスに含まれます。



AROUND PLACE

1. Lives Meeting Table (ライブスミーティングテーブル) 2. linkage(リンケージ)
3. co-comori (ココモリ)



仕事に集中するためのプライベートな「ワークルーム」



1.Parabel (パラベル) チェア 2.Parabel (パラベル) デスク 3.VIVANT (ヴィヴァン) カート
4.モニタースタンド 5.ツールツール

生活の場と隣り合わせのコンパクトな「ワークスペース」



1.VIVANT (ヴィヴァン) デスク 2.VIVANT (ヴィヴァン) チェア
3.VIVANT (ヴィヴァン) カート 4.集中パネル フロアタイプ 5.ホームソファ

一時的に働く環境に変わるフレキシブルな「ワークスポット」



1.2.canteen (キャンティーン) 3.Parabel (パラベル) チェア 4.集中パネル 卓上タイプ
5.VIVANT (ヴィヴァン) ポット

空港



1.Serica (セリカ) 2.drape (ドレープ) 3.pirouette (ピルエット)

シェアオフィス



1.SOLISTE LIBRARY (ソリストライブラリー)
2.CYNARA (シナラ) 3.drape (ドレープ)

コワーキングオフィス



1.Shared Space (シェアードスペース) 2.co-comori (ココモリ)
3.nel (ネル) 4.coby's (コビーズ)

SDGs-ESG への取り組み

人にも・環境にも優しいオフィスで、生き活きと働こう

大規模な自然災害や資源枯渇、少子高齢化、ITリスク。労働人口の継続的な減少や働き方・働く環境の変化など。私たちを取り巻く社会の環境は刻々と変化し続けています。そのような中で、企業が価値を高めながら発展していくためには、課題解決をめざした「SDGs」や「ESG経営」の観点に基づいた取り組みが重要になります。

SDGs

SDGsは2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。



ESG

さまざまな課題に直面する現代において、企業が長期的に成長するために必要なESG(環境:Environment、社会:Social、ガバナンス:Governance)の観点のもと経営を推進、持続可能で豊かな社会の実現を目指します。



社会課題の解決に向けたオカムラからの提案

環境への配慮

環境負荷の高い事業を継続していると、必要な資源を調達できなくなるなど、さまざまな経営リスクにつながります。環境に配慮した取り組みを推進することは、持続的な経営を行う上で大きな力になります。

FACILITY 工場での取り組み ものづくりを通じた環境負荷低減活動	PRODUCT 製品での取り組み サーキュラーデザイン 7つの製品判定基準	SERVICE サービスでの取り組み SDGsに配慮したオフィス空間 カーボンオフセットプログラム
--	---	---

人的資本経営の推進

“WELL at Work”それは心と体の調和が取れ、活力が向上している状態のこと。企業の本質的な価値向上をめざした「人的資本経営」が注目されている今、従業員一人ひとりの“WELL at Work”を実現し、本質的な企業価値の向上を目指しましょう。

PERSPECTIVES WELL at Workを実現するオフィス作りのヒント 生き活きと働ける空間づくりに重要な10のポイント	INITIATIVES オカムラの提案する空間 健康的な働き方を実現するオフィス空間 オフィスの健康配慮を評価するWELL認証	PRODUCTS オカムラの製品 WELL at Workを実現するオカムラの製品
--	---	--

CMF

空間コーディネートに素材力を活かす



一人ひとりが作業や目的に合った場所を選び、のびのびと働ける。そんな「はたらき心地」のよい空間には個性あふれ、人間の感性を刺激するようなCMFが求められているとオカムラは考えます。

空間のテーマを設け、それに合う“素材感”と“空間イメージ”を表現しています。

CMFとはサーフェイス(表面)を構成する3つの要素です。

Color 赤、青、黄などの色	Material 木、樹脂、金属などの素材	Finish 光沢、マットなどの仕上げ
---------------------------	---------------------------------	-------------------------------

遊び心のある開放感
交流空間 ←

親しみのあるリラックス感

凛とした安心感

集中しやすい落ち着き感
→ 集中空間

Work x D (ワーク・バイ・ディ)

オカムラが提案するデジタルトランスフォーメーションサービス



時間や場所にとらわれない柔軟な働き方をデジタルの力でサポートします。センターオフィスや他拠点、アラウンドプレイス、自宅をデジタルにコネクト。包括的にシステムを構築し、ワーカーには、これまでよりも優れた働き方の体験を、施設管理者には、これまでよりも優れたファシリティマネジメントシステムの体験を提供します。

Before

After

働く環境を取り巻くあれこれを、ひとつのIDとひとつのアプリで

座席予約システム (ホテリング)	ロッカー予約システム	会議室予約システム	所在情報照会	可視化ツール (ダッシュボード)
入退室管理システム	顔認証	受付システム	混雑状況	費用請求

はたらく場をより自由に。“はたらき心地”を高めよう。



Choose your work styles



Special Site

www.okamura.co.jp/company/ws202x/

人を想い、場を創る。

OKAMURA

ホームページアドレス <http://www.okamura.co.jp/>

お問い合わせ・ご相談は
お客様相談室へ

フリー
ダイヤル  **0120-81-9060**
受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

株式会社オカムラ

お問い合わせ・ご相談は、下記へ

2023年11月 発行

ワークプレイス製品部 YONB28-3N1 P.TG '23-11